

G-2 岡山県における家庭科教育の歴史的考察

ノートルダム清心女子大家政 高須佐基子

昭和48年度からの教育課程改訂により、高校家庭科四単位必修が完全実施となった。これを契機に「男女共修家庭科を」の声が急速に高まり、家庭科教育をめぐる論議が白熱化してきたといえよう。こうした動きは、家庭科教育の流れの中でどういう意味をもつのか、歴史的な見地より考察することによって、家庭科教育のあるべき方向をさぐってみたい。

家庭科教育の歴史を戦前、戦後の2つの時期にわけてみる場合、時の社会情勢や教育条件の変動が、家庭科教育に与えた影響は大きいといえよう。ここでは、地域における家庭科教育という立場から岡山県をとりあげてみる。家庭科教育はその伝統、個性にどのようにいかされ、実現されてきたのか、具体的な実践を通して、その果たした役割、意味、継承されるべきもの、克服すべきものは何か、等を明らかにしてゆきたいと思う。